

英明会だより 第50号

ぶれいん

発行日：令和7年2月吉日

発行：学術図書委員会

発行責任者：大西 宏之

編集責任者：吉野 孝広

2025年問題からの展望

医療法人社団英明会

大西脳神経外科病院

理事長・院長

大西 宏之

明けましておめでとうございます。新たな年を迎え、皆様には健やかに
お過ごしのこととお慶び申し上げます。また昨年も日々の臨床業務をこな
しながら多くのプロジェクトを行い戸惑いもあったかと思いますが、例年
以上の水準を維持できたこと、これは皆様方の頑張り、協力なくしては達
成できなかったことです。まずは御礼申し上げます。

今年は十二支では巳年ですが、干支では「乙巳(きのと
み)」の年でこれは60年に一度巡ってくる非常に貴重な年と
言われています。

これまでの努力や準備が実を結びはじめ、新しいものが生
まれ成長していくには絶好の機会となります。そこで当院と
しても、今年は新たなチャレンジの年としていきたいと思
います。昨年はMRI2台の更新工事から始まり、新電子カルテ
の選定、人材獲得プロジェクトの発足、回復期病棟の増床工
事などを行いました。また医師の働き方改革や6月の診療報
酬改定などへの対応もありました。臨床活動においては、市
民公開講座やオープンホスピタル、看護の日にちなんだ看護
フェアなど市民への啓発活動についても積極的に力を入れて
取り組んで参りました。これらの活動は今後も継続して取り
組んでいきますが、まずは回復期増床に伴う60床の本格稼
働に力を入れて取り組んでいきたいと思います。というのも
今年がついに2025年問題が現実となる年です。団塊の世代
が後期高齢者に突入することに伴い、高齢者の医療や介護が
一層重要視され、私たちが直面する課題はますます多岐にわ

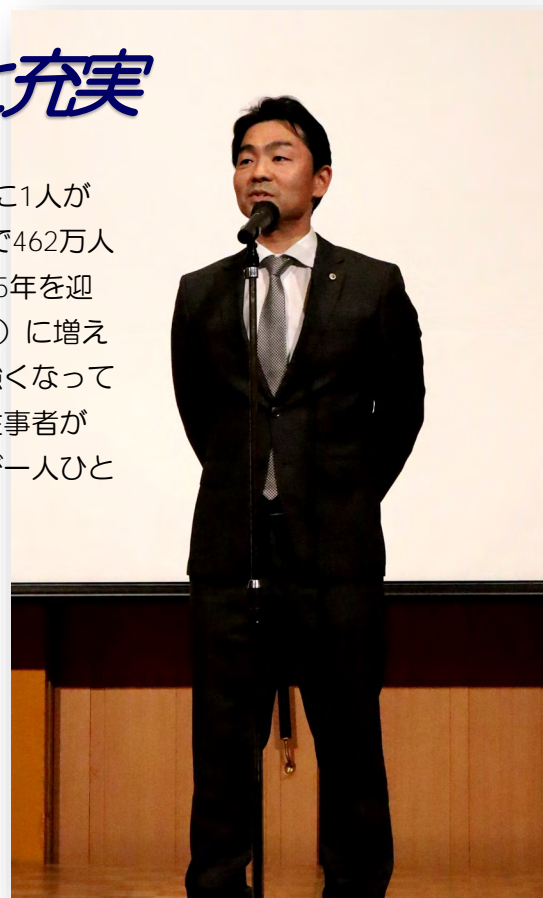


当院の 展望

労働環境の改善と充実

たることが予想されます。国民の約3人に1人が65歳以上になるといわれ、2021年時点で462万人と推計されていた認知症高齢者は、2025年を迎えると約700万人（高齢者の約5人に1人）に増える見込みで、今後もさらにその傾向が強くなってきます。また我々のような現役の医療従事者が年々減少してきますので人材確保および一人ひと

りの負担を減らす労働環境の改善が喫緊の課題となってきます。我々は日々多くの高齢者や認知症患者を対象としている性質上、このような社会情勢に柔軟に対応していかなければなりません。これから2040年までこのような状況が続いていくことが予想されます。回復期機能の拡充だけでなく、まずは新たな人材確保や業務効率を意識した労働環境の改善を進めたいと思います。そして法人として急性期医療だけでなく、回復期や在宅医療など、より一層の医療体制の充実を図り、高齢者の皆様が安心して暮らせる地域づくりを目指していきます。今年はその一歩に是非したいと考えています。その他にも病院機能評価の準備や、電子カルテの構築、そしてホームページの全面リニューアルなどプロジェクトが目白押しです。ですのでぜひ、これからも病院の発展に向かって皆様の力を結集して一緒に取り組んでいきたいと思ひます。



コミュニケーション

職員間の信頼関係

健康と笑顔の一年

このような改革を行うためには、コミュニケーションの中での信頼関係がなければ達成することができません。对患者さんはもちろんのこと、スタッフ同士においても風通しをよくして良好な信頼関係を築き、そしてさらなる素晴らしい医療が今年も展開できることを期待しています。本年も変わらぬご支援をお願いするとともに新しい年が皆様にとって、健康で実り多い一年となりますよう本年もどうぞよろしくお願い致します。

巳年 3プロジェクト始動

会長 大西 英之

あけましておめでとうございます。今年は巳年ですね。蛇は脱皮して成長することから再生とか新たな挑戦の年と言われます。医学とも関わりが深く、アスクレピオスという医学の神様は蛇使い座の神でもありました。WHOのマークに蛇が巻き付いたアスクレピオスの杖が象徴としてあり、医療従事者にとって巳年は縁起の良い年と言えるのではないのでしょうか。当院も25年目を迎え更なる飛躍の年にしたいと思っています。そこで今年3つの重要な取り組みを挙げてみました。

まず1つ目は「見える化」です。各部署の業務内容や運営方法、診療報酬の仕組みなど職員全員が分かるような仕組み、コンピューターを開けばすぐに情報が出てくるようなシステムを作り上げたいと思っています。

2つ目は卒後教育です。時代と共に医療は大きく変化しています。当院を開設した当時、脳神経外科専門病院は明石市にはありませんでした。脳卒中になれば動かさず、安静に血圧を下げ救急車で病院へ運ぶ、専門病院ではないためそれが適切な処置なのかさえわからないそんな時代でした。

医学は日々進歩します。新人で入職し学校で習ったことが、数年もすれば大きく変わっていることも日常茶飯事です。日々勉強しなくては医学の進歩に取り残されてしまいます。その機会が失われないよう各部署の状況に応じた教育体制、システム作りを進めたいと思っています。

最後は、各部門で専門資格や認定資格の取得を奨励する制度の開始です。職種によっては診療報酬制度とリンクしている認定資格もありますが、そうではない職種についてもその認定・専門資格取得に対し、相当する手当の支給を検討しています。日々研鑽していることが給与に反映される制度により皆さんの生活や仕事を活性化していくことが目的です。今年はこれらの3つを考えていますが、他にも進んでいるプロジェクトは多く大変な一年になると思いますが、考え方を換えれば新たな展開の年でもあります。これまで以上に団結し飛躍の年となるよう頑張りましょう。



巳年の方に聞きました 今年はどんな年にしますか？



～巳年の願い～

城巡り(山城制覇!!)
+日本100名城



埤本 勝司

巳のようにしなやかに大きく成長するチャンス。三日坊主を卒業し新しいことにチャレンジを!!



大西 宏之

北3階 ・祝!!還暦 まだまだ気力・体力あるぞー!!早すぎる定年退職…まだ働きたい!! ゆる～くまだ働きたい
・健康維持と欲を言えば一回り下の巳年と間違われたい



医事課

一年間元気に過ごす

栄養科

淡路島でグランピング!!

- ・フルマラソン完走
 - ・オーロラを見にいきいたい!!
 - ・毎日美味しいものを食べる!!
 - ・FRUITS ZAPPERのLIVEを5回観に行く
- 放射線**

- ・休みの日は寝すぎず有意義な時間を。川崎美空
 - ・大好きなあいみよんのLIVEに沢山行く。加藤愛実
 - ・いろいろな場所に行って思い出を増やしたい!
 - 健康的な生活を心がける。坂本恵理
 - ・親知らずが無事に抜けますように。積み立てNISA始めます。安木蘭
 - ・健康第一 原田晃志
- 南3階**

- ・長女が少しでも(歌とダンスで)有名になれますように。次女の英語力で海外旅行に。富岡
- 北2階**

- ・みんなと仲良く1年間頑張る!!
 - ・沖縄に行きたい!
 - ・バイクのカスタム!!
- 南4階**

しなやかに、そして力強く。日々の診療に取り組みます

若い巳年と共に学術や脳波判読に貢献していきたい!!



高橋 賢吉

- ・次のステップに向けて心身ともに充実した状態に
 - 吉野孝広
 - ・自分自身の成長のためにStep upを!!いっぱい旅行に行っていっぱい食べる。 藍梨
 - ・おいしいものをいっぴいたべるぞー!! ここ
 - ・習い事を始めて、人生経験を増やす! ほりうち
 - ・筋トレ!! 西脇
- リハビリテーション科**



川合 省三



回復期病棟リニューアルオープン

2017年7月に31床で開設した回復期病棟

2025年1月から60床に増床し、リニューアルオープンしました。

「トイレを増やしてほしい」という要望もあり、このたびトイレが増設されました！！



押し・引きどちらでも
開閉可能なドア

増設して大変ですが、みんなで頑張ります！！



車椅子・歩行車でも
出入りしやすい広さ



遠くからでも使用中か
確認しやすいランプも



当院初のセラピストマネージャー資格をもつ荒田作業療法士！！

2024年度 英明会研究発表会

2024年12月21日に毎年恒例の英明会研究発表会が開催され、今回は計18演題がエントリーされました。その中から選ばれた、今年の会長賞と理事長賞を紹介します。

理事長賞 南3階病棟 看護師

水田 靖子, 川崎 美空,

2024年度の南3階の研究は「KYTの活用が与えた転倒転落予防の意識の変化とリスクセンス」について発表させていただきました。きっかけは転倒転落のインシデントを減らすために、患者ではなく看護師要因が影響しているのではないかと考え、KYTに着目したことです。結果、病棟経験年数の長い看護師とKYTを反復して行うことで、リスクセンスの向上と転倒転落意識の向上を認めました。

今年の研究担当は看護研究が初めての3人で行うこととなり、最後までまとめられるのか不安が残る中で研究がスタートしました。しかしそのような状況でも、病棟スタッフの協力があってデータ収集が行えた事と、師長、主任の的確なアドバイスのおかげで、収集したデータをまとめ、考察し、発表まで漕ぎつけることができました。発表は、自分たちの伝えたいことをうまく伝えることができるのか、終始緊張していましたが、発表後は無事に研究発表を終えることができたことの満足感と安堵の気持ちが大きかったです。そしてその後の結果発表では、なん

上藤 楓華



と理事長賞をいただくことができました。結果発表の瞬間は驚きましたが、自分たちが努力してやってきたことを評価していただいたことの喜びで胸がいっぱいになりました。今回の研究で得られたことは、今後も転倒転落予防に生かしていきたい、患者の安全に繋がりたいと思います。最後になりましたが、研究にご協力いただいた皆様に感謝いたします。

会長賞 感染対策室 主任 出口 英典

「尿道カテーテル適正使用の啓発によるカテーテル留置期間短縮感染率低下」



会長賞を受賞できたことは、私にとって大きな励みとなりました。今回発表の題材としたのは、尿道留置カテーテルの感染率低下への取り組みです。これは、私が感染管理認定看護師の資格取得後に初めに着手したものです。初めに当院の現状を把握・分析し効果的な介入方法を考えて取り組みを行いました。排尿ケアチームや看護部感染委員、ICTの協力を得て、より効果的な介入が行えた結果が受賞に結び付いたと思います。この受賞を励みに、より精進してまいりたいと思います。

私の仕事は、あくまでも感染に関する状況の「見える化」とフィードバック、改善策の提案までで、一人では何もできません。スタッフ皆様の協力があってこそ、感染対策の質を向上させるサイクルが回せますので、今後ともご協力いただければ幸いです。

発表会表彰式
全18演題



Hotel Okura Kobe
での望年会集合写真

放射線検査科

新規導入装置

1.5T-MRI 新規入替

医療技術部 副部長 佐藤 直隆

当院は2000年12月に開院し、当時設置されたMRI装置はGE社製0.5Tの装置でした。画像診断は脳神経外科の要であることから、高磁場の装置による画像診断は必須という事で2003年にGE1.5T装置新設、2004年には0.5TからGE1.5Tへの入れ替えを行い、それ



GE1.5T-MRI マグネット搬出の様子



CANON 1.5T-MRI Vantage Fortian

により画像診断は大幅に向上しました。2017年には3Tを1台、1.5Tが3台の4台体制としました。それから約20年、2台の1.5T装置もいよいよメンテナンスが出来なくなることから、CANONの最新機種1.5TMRIへ入れ替えを決断。2024年1月より2台の入れ替え工事を行いました。20年近くの技術進歩は凄まじく、今回3TMRIにもAIを搭載、画像処理にもAIを導入し画質の向上と撮影時間の短縮が計れ、患者さんに優しい検査が出来るようになりました。

とは言え進化し続ける装置に使われるのではない、放射線技師個々も技術、知識の向上に努めいつまでも使う側であり続けたいといけないと思う次第です。

編集後記

野菜だのお米だの、相変わらず物価高で、いろいろと大変な状況です。しかし、今年の干支「巳」には、昔より金運上昇などの言い伝えがあるようなので、皆さん運だめしに宝くじなど買ってみるのもいいかもしれませんね。

さて、今回の「ぶれいん」から、新たにメンバーを4人加えて作成を行っています。今後も皆様にお楽しみいただけるような「ぶれいん」をお届けしたいと思っています。引き続きご愛読下さい。

(田中)

